第28号　2018年１月

朝田教育財団だより28

公益財団法人 朝田教育財団　Asada Educational Foundation

「朝田善之助記念館」開設元年を迎えて

理事長　松井　珍男子

新年あけましておめでとうございます。すがすがしい新春をご家族のみなさまとともにお迎えのこととお喜び申し上げます。常日頃からわが財団運営に対し、ご支援、ご協力を賜っていますことに深甚なる敬意を表します。

2018年の日本国はどんな歩みをしていくのか、国民にとって希望の持てる国の運営がなされるのか、しっかりと見守っていきたいと存じます。

昨秋に突然の国会解散があり、野党分裂選挙で今回も与党の圧勝となり、３分の２を超える絶対安定多数を占めました。「安倍一強」を倒すのだと、野党の第一党が新党に合流してしまうという理解しがたい事態に唖然としたのは、小生だけではないでしょう。その合流先の新党《希望の党》小池百合子党首の「排除」と「さらさらない」という一言によって、急速に新党への期待の風は止んでしまうこととなり、惨々たる結果を招いたのでありました。そんな新党への合流を決めた第一党の代表に対して、多くの国民・有識者からの批判の声は日増しに高まっていきましたが、その判断の正否は今後、歴史的に検証されることでしょう。

そして、かつての民進党は《立憲民主党》《希望の党》《無所属》《民進党》の４派に分裂してしまったのであります。こんな野党の体たらくで、与党の圧勝に終わったのでありました。共産党、公明党、維新の党も議席を減らし、自民党と立憲民主党が議席を伸ばすこととなったのであります。安倍内閣の支持率は上がっていないままですが、自民党は圧勝したのでした。そして、安倍晋三総理は「謙虚」に政権運営を行う旨をさまざまな場で発言しています。

安倍総理の年来の念願である「憲法改正」にいよいよ取り組んでいくのでしょうか。米朝のかつてない緊張関係の中で、軍備拡張路線へひた走るのではない

でしょうか。平和憲法を72年間に亘って守ってきましたが、「戦争のできる普通の国」に向かっていくのでしょうか。トランプ大統領は初訪日において「アメリカの武器をもっと買え」と安倍総理に言い寄り、総理はそれを認めるような雰囲気でした。この１月からの通常国会において、どんな謙虚な政治運営をされていくのか、しっかりと見ていきたいものです。

来年には、「平成」という年号は31年４月末日で終わり、５月１日から新年号を迎えることとなっています。天皇の生前退位によって世の中がどのように変わっていくのかもしっかり見ていきたいものです。

「朝田善之助記念館」では、生涯に亘り差別と闘い続けた人・朝田善之助氏の闘いの歴史と、人となりが分かる資料を配架・展示することを計画しています。多くの研究者・学者・文化人、解放運動の活動家、市民のみなさまにご活用いただくことを念じております。

部落差別解消法が施行され、はや３年を迎えます。今年は明治維新から150年、水平社が創立されて96年、朝田善之助氏生誕116年、オールロマンス差別事件発生から67年、同和対策審議会答申から53年になります。この長年の人権確立への闘いの歴史を今一度検証し、今どんなところに立っているのか、将来をどう展望できるのかを見極めていきたいものです。そのためにも、「朝田善之助記念館」の生きた資料をご活用いただきたいものです。

私どもが尊敬してやまない朝田善之助氏は1902年７月４日に田中部落に生を受け、1983年４月29日に傘寿で他界されるまで、差別と闘い続けた生涯でした。そして、生まれた田中部落に住み続け、活動を展開されてきたのでした。

人は「棺に収まって」からその評価が定まると言われています。朝田善之助氏ご逝去のあとに、多くの活動家、学者・文化人、マスコミ関係者、行政職員、「朝田学校」で学んだみなさまが追悼文を寄せた『追悼 朝田善之助』が出版されました。この書籍を読むと、改めて「部落解放の巨人」の姿が余すところなく描き出されています。人間的な魅力と幅の広さを持った、本当にでかく、大きな存在感のある方でした。その時代的背景、その時がこの「巨人」を生み出したともいえるでしょう。

小生が朝田善之助氏と初めてお会いしたのは、今から60年前の1958(昭和33)年４月、御年56歳の脂の乗り切った指導者のころでした。それからは朝田学校の一年生として毎夜、旧宅２階での学習会、田中支部の活動、他部落へのオルグ活動

などに参加してきました。それ以降、朝田善之助氏の晩年までの活動を見聞き、体験してまいりました。そんな朝田善之助氏の事績のなかで、「勤務評定反対闘争における同盟休校の闘い」「解放理論、三つの命題の提案、全国大会での決定」「部落解放要求貫徹 全国請願闘争」「同和対策審議会答申」「同和対策事業特別措置法制定」「組織内部の分裂、内部抗争、特定政党との理論闘争」「狭山差別裁判闘争」「改良住宅家賃値上げ反対闘争」「朝田教育財団の設立」など、その中心軸で闘われてこられたことがとくに記憶に残っています。理論と実践を学び、この方に人としての生き方、教育の大切さ、家族のあり方、仕事への向き合い方、社会活動の大切さなどを学ばせていただいたのであります。

当財団法人は1981年に設立し、今年で37年を迎えることとなりました。長年の懸案であった「朝田善之助記念館」は竣工、引き渡し、４月の開館に向け、設計･施工関係者による最後の努力が続けられています。

部落民300万人の問題を１億２千万人の国民的課題に押し上げたこの部落解放の巨人が歩まれた足跡をよくご理解いただけるような資料、そして、朝田善之助氏の生きざまを学ぶ資料、京都・日本の解放運動の道筋をたどる資料、部落解放運動の歴史を学ぶ第一級の資料などを整理・配架し、みなさまのご期待に応えられる記念館にしてまいります。

最後に、この記念館開設および図書館施設環境整備のため、多くのみなさまからご寄附いただき、とくに朝田家のみなさまからは多額のご寄附を賜りました。厚く御礼を申し上げます

地域住民のみなさまには、工事期間中はたいへんご迷惑をおかけしたことと存じますが、ご協力・ご理解いただきましたことに心から感謝を申し上げます。また、この記念館の建築基本計画から設計･施工監理までご尽力くださいました森田一弥建築設計事務所の森田一弥（所長）様ほか職員のみなさま、建築工事を請け負ってくださった昭和工務店の中村高司（京都支店長）様、宮内建築の宮内寿和（大工棟梁）様ほか大工職人のみなさま、電気・設備ほかさまざまな工事関係者のみなさまに心から感謝を申し上げます。そして、「図書館業務準備委員会」において図書館開設準備を進めてくださった井本理事（委員長）、梶村評議員、竹口理事、小山理事、笹原理事、杉原理事に深甚なる敬意を表します。

キューバ・カナダ視察団に参加して

朝田　華美

公益財団法人 朝田教育財団 副理事長の朝田華美さんは、2017年９月30日（土）から10月９日（月）の10日間、京都商工会議所 会頭ミッション「キューバ・カナダ視察団」に、京都を代表する企業の方々と参加されました。財団として、副理事長に視察の印象などお話しを伺いました。

ハバナ市街の教会

〇はじめに一言

30年ぶりの海外のため、まず、集合場所を間違えたり、オロオロ事から始まりました。視察団の団員としては、数少ない女性という事もあり、皆さんにご迷惑をおかけしたことと思います。

ただ、私としては、初めての体験が驚くほどが多くあり、有意義な10日間だと、感謝しております。

〇最近のキューバの印象は

社会主義の国は初めてでした。

キューバの商工会議所 会頭のレクチャーを受けました。国としていろんな事が出来る、頑張っているという事でしたが、国が動いても、個々人の動きが感じられない、ちょっと寂しい感がありました。

私なら、お酒や葉巻にも工夫をこらし、観光客にアピールするものを売ってみたい。お土産物の種類も増やせば、利益も上がる。生活が豊かになるのに、と感じました。きっとこんな考え方は、キューバでは認められないのでしょう。

国の70％が公務員というので、身分の高い女性公務員はおられると思いますが、一般女性の起業家などというのは、夢のまた夢。国を出なければ、多分難しいと思いました。

ただ、この国の凄さは、教育費、医療費が要らないという事。それも平均寿命が80歳以上だそうで、神業のように感じました。

この点は、世界に誇れる国策だと思います。

私は、資本主義の世界で育ち、それが全てのように思いがちで、キューバでは暮らせないと感じましたが、物の豊かさと人間の幸せは、また別物という事も、考えさせられたキューバの視察でした。

ただ、一つだけ我慢できなかったのは、トイレです。

紙の質は国力に比例します。紙が固く、トイレでは溶けないのです。

他に、注意事項としては、氷には注意しましょうね。

氷はミネラルウォーターでは作らないので、お腹の調子が悪くなってしまいました。

ハバナ市街を走るクラシックカー

〇次いでカナダへ行かれましたが、ここでの感想は

実は、35年以前に来ています。

その時は、西側の国立公園をめぐり、感動しましたが、今回は東側のモントリオール、トロントの訪問です。大都会ですが、アメリカ（※）より落ち着いた感があります。（※東海岸は未訪問）

ケベック州政府関係者によるレクチャーを受け、何か日本企業との結びつきが考えられるものでした。

トロントでは、現地日系企業訪問です。日野自動車カナダ社と、スリーマンブリューワリー社を訪問しました。

日野自動車は、日本人女性が社長をなさっておられました。スリーマンブリューワリー社は、サッポロビールが買収し、日本人男性が社長でした。

現地での立ち上げには、それなりの苦労を乗り越えてこられています。

カナダは治安も良く、食事も安心して食べられほっとしました。

また訪問したい国です。

〇今回の旅の印象を簡単に

海外に出て、改めて日本で生まれて良かった。

日本人は優秀だと感じられる事ができました。

このような視察団に参加させていただき、会頭がおっしゃっておられたように、「多くを学び、多くを遊び」ました。ですが、どちらかと言えば、愉快な皆様だったので、「多くを学び、多くを笑わせていただいた」事に、感謝いたします。

ありがとうございました。

ナイアガラの滝

奨学生の集い 2015-3 学習会

「奨学生の集い 2015-３ 学習会」を2016年２月21日（日）、下京いきいき市民活動センター（京都市下京区下之町38）にて開催し、奨学生、その卒業生、講師、役員などが集いました。小山逸夫財団理事に、「部落問題基礎講座」として「『水平社宣言』と『国民へのアピール』を読み解く」というテーマでお話いただきました。お話を掲載します。

司会（山﨑）　今日は、１時間の短い時間ですが、部落問題基礎講座として小山理事に話していただきます。奨学生の皆さんの要望も話の中に入れていただいています。それでは学習会を始めます。

よろしくお願いします。

小　　山　今、山﨑さんから紹介いただきました小山と申します。どうぞよろしくお願いします。

今日は、部落解放運動の歴史的な二つの文書、「水平社宣言」と「国民へのアピール」を読み解こうというのが、テーマです。部落問題の理解が深められたらいいなと思っていますので、奨学生だけでなく他の皆さん方も一緒に参加してもらって、僕自身も学びたいと思いますので、よろしくお願いします。

それでは最初の「水平社宣言」という歴史的文書です。今から94年前に創立された水平社の宣言を読むということで進めていきたいと思っています。

「水平社宣言」の名前はもう皆さんご存知ですね。

私のほうで、読みますので、わからないところがあれば印でもつけて、後で聞いてください。ゆっくり読みます。

『宣言』

全国に散在する吾が特殊部落民よ団結せよ。

長い間虐められて来た兄弟よ、過去半世紀間に種々なる方法と、多くの人々とによってなされた吾等の為めの運動が、何等の有難い効果を齎らさなかった事実は、夫等のすべてが吾々によって、又他の人々によって毎に人間を冒瀆されてゐた罰であったのだ。そしてこれ等の人間を勦るかの如き運動は、かへって多くの兄弟を堕落させた事を想へば、此際吾等の中より人間を尊敬する事によって自ら解放せんとする者の集団運動を起こせるは、寧ろ必然である。

兄弟よ、吾々の祖先は自由、平等の渇仰者であり、実行者であった。陋劣なる階級政策の犠牲者であり男らしき産業的殉教者であったのだ。ケモノの皮剥ぐ報酬として、生々しき人間の皮を剥ぎ取られ、ケモノの心臓を裂く代価として、暖い人間の心臓を引裂かれ、そこへ下らない嘲笑の唾まで吐きかけられた呪はれの夜の悪夢のうちにも、なほ誇り得る人間の血は、涸れずにあった。そうだ、そして吾々は、この血を享けて人間が神にか

わらうとする時代にあうたのだ。犠牲者がその烙印を投げ返す時が来たのだ。殉教者が、その荊冠を祝福される時が来たのだ。

吾々がエタであることを誇り得る時が来たのだ。

吾々は、かならず卑屈なる言葉と怯懦なる行為によって、祖先を辱しめ、人間を冒瀆してはならぬ。そうして人の世の冷たさが、何んなに冷たいか、人間を勦る事が何んであるかをよく知ってゐる吾々は、心から人生の熱と光を願求礼讃するものである。

水平社は、かくして生まれた。

人の世に熱あれ、人間に光あれ。

大正十一年三月

全国水平社創立大会

以上。

これが、全国水平社ができた大会の宣言として読まれた歴史的文書です。言葉でわらないことありますか。

奨学生Ａ　殉教者ってなんですか。

小　　山　宗教上の信仰のゆえに、迫害を受けて、命を捧げた者、捧げる者。つまり宗教のために死んでいった人、殉教者ということです。

難しい言葉がたくさん出てきます。もう一度読みます。この宣言の感想もメモしてください。自分の思ったことです。

小　　山　山﨑さん、もう一度読んでください。

感想もメモしてください。

司会（山﨑）　≪宣言≫を再読。

小　　山　わからないところがあれば、なんでも結構です。

司会（山﨑）　水平社宣言を改めて読んでみて、今「殉教者」なんていう言葉が出てきたり、最後のほうは「願求礼讃」と言って、仏教の言葉が出てきたり、なんでこういう言葉がいっぱい出てきたんだろうかと…、その辺の説明をお願いします。

小　　山　山﨑さんからは宗教っぽい文章だと。

奨学生Ｂ　今、宗教っぽい話で、それはけっこうあって…、神に求められているということ、殉教者もそうですけど、その宗教が仏教、神道、キリスト教…、信仰持つ人が大勢いたのかなというのが一つと、もう一つは、「団結せよ」の次の文章の真ん中あたりの「多くの人々によってなされた吾等の為めの運動が、有難い効果を齎らさなかった事実」というのは具体的にはその運動ってなんですか。

小　　山　融和団体の運動のことです。

奨学生Ｂ　この頃からですか。

小　　山　大正７年の米騒動での部落民の力を恐れ、大正８年、大江卓らの帝国公道会は第1回同情融和大会を開いています。融和運動というのは、差別されている人たちにお説教することで、ごまかし、眠らせる、恩恵的、偽善的、糊塗的な運動なのです。

奨学生Ｂ　それには部落民も主導的に参加したというんですか。そうではないと気がついた人たちが水平社を立ち上げるっていうんですか。

小　　山　そうです、自分らでやろう！

と。

奨学生Ｂ　…というのがこの宣言につながるわけですか。

小　　山　そういうことです。それまでにも運動みたいなものがあった。その運動みたいなものが吾等のためにはなんにもならなかった。だから、自分たちでやろうやないかということで水平社を立ち上げた。

奨学生Ｂ　もっと言うと、融和運動に参加していた人たちが矛盾を感じて立ち上げたということですか。端から見ていた人たちが立ち上げたのですか。

小　　山　そう言うことだと思います。融和運動にあきたらない人たちが、立ち上げたと思います。

全国水平社の創立は大正11年３月３日で、世界の社会運動の流れの中で影響を受けています。直接的には、その年の２月21日に、大日本平等会という官製融和団体が大阪の中之島公会堂でやった大会に、３月３日に水平社を立ち上げるというビラを撒いて宣伝を行ったのです。先に言った大正７年の米騒動は、部落民がものすごく立ち上がった。その影響で原敬の最初の政党内閣ができ、米騒動での部落民の力を恐れた政府は２年後の大正９年、初めて部落問題にお金を出します。

全国水平社創立大会の特徴は、「綱領」、「宣言」と「決議」を採択します。約3,000人の人たちが集まった。

この大会で決めたことは、綱領と宣言と決議の三つです。その綱領を読んでみます。

「一、特殊部落民は部落民自身の行動によって絶対の解放を期す」

「一、吾々特殊部落民は絶対に経済の自由と職業の自由を社会に要求し以って獲得を期す」

「一、吾等は人間性の原理に覚醒し人類最高の完成に向かって突進す」、の以上です。

綱領というのは政党や大衆団体などの基本目標、あるいは当面の要求、あるいはこれらを実現するための方法、あるいは組織などを規定した文章を綱領と言います。ですから今ある各政党も、綱領を持っています。

そして「宣言」を出したわけです。自分等の解放を目指すことを宣言したわけです、こうやるんだと。

そして、最後に決議を三つ出しています。

「一、吾々に対し穢多及び特殊部落民等の言行のよって侮辱の意思を表示したる時は徹底的糾弾を為す」

「一、全国水平社本部に於て我等団結の統一を図る為め月刊雑誌『水平』を発行す」

「一、部落民の絶対多数を門信徒とする東西両本願寺が此際我々の運動に対し抱蔵する赤裸々な意見を聴取し其の回答により機宜の行動をとること」、以上です。

決議というのはこの大会で決めたこと、ということです。

つまり、この全国水平社が部落大衆を差別から解放せんとする自主的解放運動

をつくった、というわけです。すると、全国の部落に大きな刺激を与え、長い間の屈辱とか、忍従の生活を強いられてきた大衆はもう感激そのもので、奮起して水平社運動に参加しました。もう涙々の感激だったという話を聞きます。全国水平社ができてからわずか２、３年のうちに全国３府、府は東京府、大阪府、京都府の３府、そのときは東京都と言わなくて…、３府27県にもう瞬く間に広がって800ほどの地方水平社が出来上がっていきました。そして部落大衆の中心勢力となって、当時の社会運動の一大勢力となっていきます。

司会（山﨑）　ちょっと質問です。

こういう決議を読んで、穢多と特殊部落民と何が違うと判断したのですか。今、ふと思ったんですが…。なにか階級みたいなのがあったのですか。

小　　山　当時、ある地方によってはエタのことをチョウリ、あるいはチョウリンボと呼ばれています。エタ非人ですね、封建時代の最下層の身分の人たち、ということです。差別された部落民は、もう差別待遇とか賤視観念で差別する者に対して容赦することなく徹底的に抗議しました。例えばエタと言われたり、特殊部落民やと言われたら…、その抗議の仕方が徹底糾弾です。差別をなくすためには徹底糾弾するしかなかった。

つまり、当時は、差別といえば個人的・心理的なものであり、一般市民のなかでもっともおくれた封建的な考え方を持っている者が、それにわざわいされて問題を起こしているのだという捉え方をしていたので、差別をなくする闘いも、いきおいその捉え方に照応して、個人に対する徹底糾弾という手段がとられました。さらに、今まで政府などがやってきたいろいろな施策は、まやかしだから、我々はそれを拒否するということです。

それで徹底糾弾やったときの具体的方法が、初期の段階で三つほどありました。差別されたらどうしますか？

奨学生Ｃ　反抗する…。

小　　山　どういう反抗を？

奨学生Ｃ　反省させる。

小　　山　反省というより…。

奨学生Ｃ　謝らせる。

小　　山　そう、そのころは、そういうことをやって、それで済ませてきました。具体的には、差別をした者に謝罪させるとか、謝罪状を書かせるとか、新聞広告を出させるとかいうことで、事足れりとしていました。すると、一定の程度、運動の効果が現れて顕現的な差別がなくなってくる。運動する手掛かりがなくなる。水平社は差別事件が起こらないと動かない、または動きようがない。だから、日常的に活動を続ける大衆組織には発展しなくなった。

先ほど述べたように全国水平社ができて800もの地方水平社が２，３年ででき、燎原の火のごとく、ものすごい広がりと盛り上がりを見せた。水平社運動を始めると、支配階級は即座に差別糾弾を犯罪とする政策をとり、多くの犠牲を出させるために挑発を仕組んで、つねに介入し

てきました。例えば、大正12年の奈良県で起こった国粋会と水平社の闘争では、差別者をけしかけ、国粋会をその争いの中に入れ、そして一大紛争を起こさせ、けんかを仕掛けた側からは犠牲者を非常に少なくし、こちらからは多くのものを検束するという形で、水平社に対する弾圧を大きくかけてきました。それから2年後の群馬県世良田村の差別事件では、23戸の部落を村民2,500人に襲撃させ、焼き討ちさせています。これに対し、またも警察は襲撃した世良田村民よりも襲撃された部落の兄弟に重刑を科しました。

水平社の決議にあるように、差別をなくすために個人に対する徹底糾弾を方針として闘争すると、そういう中で弾圧などを受けて運動は衰退していきます。

この水平社の初期の時期、解放運動を一番進められなかったのは、何といっても、「差別を観念とする考え方が、容易に打ち破れなかった」ということです。これらの問題を克服していくのが、その後の「水平社解消意見書」と「部落委員会活動」の運動へとつながり、発展していきます。

小　　山　「宣言」に戻ります。先ほど、Ｂさんが言われたように水平社宣言を読んでみると、宗教的、道徳的ニュアンスを持っています。これはフランス革命、フランス人権宣言等々、世界の初期の運動は、宗教的で、道徳的で、精神的なものが感じられますね。

ところで、水平社宣言のすばらしいところは何でしょう？

参加者Ｄ　文章の中ですか。

小　　山　水平社宣言の内容で。

参加者Ｄ　まず宣言を出したのがすばらしいと思います。部落民が自発的にやったのだから。

小　　山　そう、全く自発的に自分たちから「やろう！」とやったのが一つ。

そのなかで、宣言のすばらしいところがあります。

それは、水平社が「特殊部落民よ団結せよ。」と呼びかけ、自ら特殊部落民であることを誇りにするという、高い自覚の上に立ってやってきた、という点です。自分たちのことを「特殊部落民よ」と言う、その自覚の高さがすばらしい。宣言が言うように特殊部落民であることに誇りを持てるような人間になるということを、ここから学んでいかなければならないのではないかと思います。部落差別はもとより、社会的な矛盾にかかわる一切の問題について、我々は誰にも負けないという確信と自信を持って、誇りをもってやるということ。そういう精神がやはり非常に必要ではないかと思います。特殊部落民であることに誇りを持て！と。だから宣言はすばらしいのです。エタであることを誇りだ、というんですから。

小　　山　今日、２つ目に学ぶのが、「国民へのアピール」です。

全国水平社創立50年記念大会が1971年、昭和46年３月２日に開かれます。「水平社宣言」から50年です。翌３月３日、全国水平社創立50周年記念集会で、部落解放同盟はこの「国民へのアピール」を

発表しました。その文章です。読んでもらいます。

笹　　原　「国民へのアピール」を読む。

『国民へのアピール』

部落民に対する差別に反対し、完全解放を目ざしてひたすらたたかいつづけているわれわれは、今日、全国水平社創立50周年をむかえるにいたった。この50年の部落解放運動の年輪は、さまざまなかたちをとってあらわれる差別事件にたいする幾多の糾弾闘争によって一つずつきざまれ、また、一つの年輪の積みかさねは確実にたたかう組織の拡大と力のたかまりをもたらした。

「部落民自身の行動によって絶対の解放を期す」と宣言した全国水平社創立以来50年の部落解放運動の歴史は部落民の不屈の闘争の経験をもとに部落民に対する差別が何であるかを追及してきた。

部落差別に対する観念的理解を余儀なくされていた部落解放運動の初期の段階から、50年の闘争の経験をもった今日、部落差別の本質が、部落民のおかれている社会的存在そのもののうちにあることを客観的にあきらかにするにいたった。

部落差別とは、明治の初期から今日にいたるまで、部落民に、就職や、教育の機会均等、居住の自由などの市民的権利が行政的に不完全にしか保障されず、一般行政のらち外におかれているところにある。わけても、封建遺制である身分差別のために、主要な生産関係から除外されているところに、部落差別の本質がある。その結果、部落民は、停滞的、慢性的失業者の地位におかれているのである。

部落民の差別されたこの社会的存在に照応して、社会意識における部落民に対する差別観念が存在し、つねに拡大再生産されている。そして、部落民のおかれている差別された社会的立場にたいし、不断に否定的作用をおよぼしている。日常に露骨な差別言辞や行動をもって行なわれる差別事件においてあきらかなごとく、それは部落民に対してまさに死活的影響をもっている。

われわれは部落解放運動50周年を記念するこの集会において、部落問題の完全な解決が、部落のみならず、日本の勤労者全体の運命にかかわる問題であり、すぐれて日本の民主主義水準にかかわる重要な課題であることを訴えねばならない。

このように差別され、圧迫された劣悪な生活をよぎなくされている部落民が、このような社会的地位にとどめられているのは、封建社会と同じように、部落民だけを直接に搾取したり圧迫したりすることだけが目的ではない。むしろ、部落民に労働市場の底辺をささえさせることによって、一般勤労者の低賃金と低生活のしずめとしての役割を果させるためである。このように、部落差別は、客観的には、日本人民の生活と文化を抑圧する手段として使われているのである。

しかしながら、一方、このような社会的地位におかれている部落民に対する差別観念は、社会意識のなかに普遍化し、根強く温存されているのであり、気分、感情、伝統の力あるいは習慣、情緒と

いったものとからんで、差別観念は、払拭しがたいものとなって人々をとらえている。

ここに分裂支配という政治的役割がかくされている。したがって、差別観念が人々をとらえるとき、社会意識としての差別観念が自らの主観をとわず、客観的に自己をとらえていることを明確に自覚しながら、自分自身とたたかい、社会とたたかっていかねばならない。そのときにだけ、部落問題を理解することができるのである。

われわれは、広く一般国民に訴える。ここにのべてきた部落問題の完全解決が、日本の勤労市民の民主主義的諸権利と自由の獲得にとって、不可欠の条件であり、それぞれの課題としてたたかわれねばならないことを！

部落解放運動とすべての民主主義運動の強固な結合を！

1971年３月３日
部落解放同盟
全国水平社創立50周年記念集会

以上。

小　　山　創立50年記念大会（第26回大会）は、解放運動が一番伸び、頂点に達したといえる大会です。今日運動上に起こっている問題について、警告を発している運動方針でもあります。

司会（山﨑）　読み直してみると、格調高い文章です。この26回大会のときから、僕は運動にかかわりました。

小　　山　ここで一番勉強したいと思うのは、「水平社宣言」と、この50年後の「国民へのアピール」の違いです。今、山﨑さんは「格調高い文章だ」と言われた。

司会（山﨑）　２つの文章から、部落民の不屈の闘争の経験をもとに部落民に対する差別が何であるかを追及してきたという点です。

もう一つは、気分、感情、伝統の力、習慣、情緒、そういった差別観念となって払拭しがたいものとなって人々をとらえている、と捉えているところです。

小　　山　50年後の「国民へのアピール」では、今、山﨑さんが言われたように、50年の部落解放運動の中で、「部落民に対する差別が何であるかを追求し」、「部落差別の本質が、部落民のおかれている社会的存在そのもののうちにあることを客観的にあきらかにし」、三つの命題を指し示したことです。ここが重要です。

「部落差別とは、明治の初期から今日にいたるまで、部落民に、就職や、教育の機会均等、居住の自由などの市民的権利が行政的に不完全にしか保障されず、一般行政のらち外におかれているところ

にある。わけても、封建遺制である身分差別のために、主要な生産関係から除外されているところに、部落差別の本質がある。その結果、部落民は、停滞的、慢性的失業者の地位におかれているのである」こと。

部落差別の社会的存在意義は、「このように差別され、圧迫された劣悪な生活をよぎなくされている部落民が、このような社会的地位にとどめられているのは、封建社会と同じように、部落民だけを直接に搾取したり圧迫したりすることだけが目的ではない。むしろ、部落民に労働市場の底辺をささえさせることによって、一般勤労者の低賃金と低生活のしずめとしての役割を果させるためである」こと。

そして、社会意識としての差別観念を、「このような社会的地位におかれている部落民に対する差別観念は、社会意識のなかに普遍化し、根強く温存されているのであり、気分、感情、伝統の力あるいは習慣、情緒といったものとからんで、差別観念は、払拭しがたいものとなって人々をとらえている。　ここに分裂支配という政治的役割がかくされている」と。

ここに「部落差別とは何か」を、とくに「部落差別の本質」を明らかにした、ということです。ここは大事なところですので、しっかり学んでほしいと思います。

小　　山　この「国民へのアピール」は、短い文章の中に、現在の解放理論の「宣言」と考えてつくられました。だからものすごく力を入れて、つくられました。差別の本質が明らかにできたことによって、闘いの方向を「部落解放運動とすべての民主主義運動の強固な結合を！」で、最後結んでいます。

小　　山　ここまでざっと、水平社創立大会の「水平社宣言」と解放運動50年の闘争の歴史と伝統をあらわした「国民へのアピール」を読んできました。この50年の間には、部落民の差別の厳しい生活の中で解放運動が進められてきました。

ご承知のとおり、戦前は日清、日露戦争、第一次世界大戦、日中戦争、第二次世界大戦など、間断なく戦争が行われた中、部落民は極度に圧迫された生活を余儀なくされ、弾圧のなかでも解放運動を進めてきました。

しかし、戦後70年たった今日、世界でたった62人の金持ちが世界70億人の半分の富を持つ、という格差が生じ、世界各国が富を奪い合うという世界経済戦争という状況ではないでしょうか。各国国内では、非正規労働者のものすごい増大が進んでいます。契約社員、派遣社員、パート、アルバイトなどです。正規の職員、社員にしない。それから女性、働く女性の低賃金の実態。こういう実態の中で部落民の生活はますます圧迫されています。

小　　山　「国民へのアピール」の元になる、「国民に訴える」という文章があります。これはぜひとも読んでください。少し紹介しますと、

「日本の働くすべての大衆の支持と、

それを組織するあらゆる民主団体の支援とによって、日本の勤労者中もっとも低い生活に陥れられている部落民の市民的権利を完全にかちとることは、日本の未完成な民主主義を飛躍的に発展させ、すべての勤労者の民主主義的権利を大きく拡大させる条件をつくりあげるものである。今日、部落解放運動の発展は、わが国の民主主義改革の発展水準のバロメーターとなっている。すべての勤労国民にそのことを明らかにし、訴えたい。」と、述べています。「国民に訴える」は、歴史を始め、部落解放運動のおおよその内容がしっかり捉えられる、と思います。

解放運動発展の歴史の上で節目となるのが、水平社の時代では①水平社解消意見書、②部落委員会活動、③高松差別裁判、戦後の④オール・ロマンス差別事件、⑤差別の本質、⑥三つの命題、などです。ぜひ参考にしてください。

小　　山　最後です。今日の社会では、部落差別はなくなったのですかと聞かれたときに、どう答えるでしょうか。なくなっていません。「国民に訴える」に次のように書かれています。

「1965（昭和40）年８月に出された『同和対策審議会』の答申には、その前文に、『同和問題は人類普遍の原理である人間の自由と平等に関する問題であり、日本国憲法によって保障された基本的人権にかかわる課題』であり、『これを未解決に放置することは断じて許され』ず、『その早急な解決こそ国の責務であり、同時に国民的課題である』と明記されている。そして近代社会における部落差別とは『ひとくちにいえば、市民的権利、自由の侵害にほかならない』といい、市民的権利、自由とは『職業選択の自由、教育の機会均等を保障される権利、居住および移転の自由、などであり』、『これらの権利と自由が同和地区住民にたいして完全に保障されていないことが差別なのである』と述べている。さらに答申は『これら市民的権利と自由のうち、職業選択の自由、すなわち就職の機会均等が完全に保障されていないことが特に重大である』と指摘している。」だから、差別がなくならないということになります。「このような指摘こそ、われわれ部落解放同盟が強く主張し続けてきたことの一定の反映である。」と。

解放運動は答申にこれを言わせたわけです。だから解放運動の中で、「同対審」答申の最も評価するところはここだ、ということです。残念ながら、時間がきました。

司会（山﨑）　ありがとうございました。奨学生にとって何のことかなという部分もあったかと思いますが、これからも部落問題をしっかり学習してください。

今回「水平社宣言」と「国民へのアピール」を学習しましたが、これがなぜ自分と関わるのかということも、疑問に思ってもらえたら嬉しいと思います。小山理事、ありがとうございました。

奨学生の近況 2017年度 前期

人との縁

S.A

大学４年生になって、ようやく人の縁の面白さを知ることができました。大学３年生から４年生に上がるまでの春休みに私は、先輩を笑顔で送り出したいと思い、卒業祝賀会の有志スタッフとして活動していました。卒業祝賀会は、卒業式の後、卒業生を笑顔で最高の思い出を作って送り出すために学内で祝賀会を上げる目的で存在します。有志スタッフが自らクイズをしたり、出し物などを企画していきます。私が、卒業祝賀会に参加した理由としては、前年度卒業した先輩にはとても可愛がってもらい、感謝の気持ちがすごくあったので、その先輩たちに恩返しをしたいと思ったからです。

卒業祝賀会の企画をしている間、ずっと卒業する皆さんの笑顔を思い浮かべながら準備していました。その中で思ったことがあります。仲良くなった先輩の中には、本当に卒業間際で仲良くなった人もいました。もっと早く仲良くなりたかった、出会っていたかったと何度も思いました。しかし、その人と出会えたこと自体に感謝しないといけないと感じました。自分とその人が出会ったことには必ず意味があり、出会った時期も最適な時期に出会ったのではないかと思いました。早く出会ったからといって、必ず仲良くなるわけではないし、出会うタイミングその時の自分の気持ちなど様々な要因が関係して、良好な関係が築けるのではないかと考えるようになりました。

卒業間際で仲良くなった先輩とは不思議なことにとても仲良くなりました。卒業した今のほうがとても親しいです。相手の仕事のシフトがでると、すぐに私に教えてくれ、「会おう、遊ぼう」と誘ってくれる仲にまでなりました。一方で、よく大学時代は遊んでいたけれど、卒業してからは疎遠になった人もいます。そのように本当に人の縁はわからないと思いました。

大学４年生になったら人との出会いは全然ないだろう、と考えていました。しかし、大学４年生になってからもものすごく人と出会うことができました。学内の全くサークルも違う後輩や、中国からの留学生と出会うことができました。その人たちとは、１度きりの出会いではなく、何度も遊ぶ仲にまで発展していきました。自分が人との縁を大事にすればするほど、素敵な人と出会え、仲良くなれるということを実感しました。

これから社会人になり、また新たな環境でたくさんの人と出会います。その時

に今の気持ちを忘れずに、人との縁を大切にしていこうと強く思いました。

（大学 臨床心理学部
教育福祉心理学科 ４年生）

前期報告

M.M

学業では、前期より自分のやりたい分野より卒業のための講義が多く少し不満を感じている。だが、講義で卒論に使える調査が出来たのはとてもいい収穫だった。

内容としては、若者の死についての意識調査だ。やはり、この問題を扱うのは教授の年代と私たちの年代での価値観の差が出た。教授は、死にたいと思ったことがあるかの回答は少ないので調査は難しいと考えた。

私たちは意識が変わっているため、回答してくれるため調査は可能だと考えた。結果、やはり予想より死にたいと思ったことがある若者は多かった。

今回調査対象が大学生だったので、ほかの年代にも調査していきたいと考える。

そろそろ卒論に向けてサポートしてもらう教授を選ばなければいけない時期である。現在のテーマでは、若者の自殺問題を扱っているが、教育社会学に興味を持っているので悩んでいる。

教育社会学に興味を持った理由としては、若者の死への意識に関連している。人間の意識や価値観の始まりは教育から成ると考えるからだ。

私は人間について掘り下げて勉強しているので、これらを活かした役者になりたいと思っている。

交流会でお話したとおり、地域で差別があった分、前向きに地域を活性化させて欲しいと感じた。学習会で崇仁地区のお話を聞き知らないことが多く、崇仁地区を知る良いきっかけにはなった。だが、崇仁地区が抱える課題、急激な人口減、高齢者が人口の４割を占める少子高齢化の厳しい現状についての話が中心でした。崇仁地区の将来像や展望、その中での財団の奨学生に期待される役割などについて話をもっと聞きたく思いました。

（大学 文学部社会学科 ２年生）

学業生活 クラブ活動、文化祭

Z.Y

私は、2017年度の精華大学木野祭実行委員会に入った。木野祭とは精華大学の文化祭である。

私が、木野祭の実行委員になった理由は、木野祭で『ヲタラップバトル』を行うためである。『ヲタラップバトル』を行う事と木野祭実行委員になることが、どのように関係するのか。精華大学では音響機材を持っている団体が、軽音部、フォークソング部、ホピュラカルチャー学部と限られている。なので、個人でラップやレゲエ、弾き語りなど、どこかの団

体に行かない限りできない。私は、どの団体にも知り合いがおらず、音響機材を使うことができる木野祭実行委員に入ることを選んだ。

木野祭実行委員で私の役職は、ステージ担当であった。ステージ設営や木野祭当日のステージ警備が主な仕事である。ステージ設営は全て学生だけで行うので時間がかかる。今回は準備期間中に２度の台風が来たため余計に時間がかかり１ヶ月ほどかかったが木野祭に間にあわせることができた。

私は、木野祭実行委員より以前からダンスサークルに入っておりサポーターとしてダンスメンバーのサポートを行ってきた。今回は、ダンス演技で必要となるマイクスタンドの準備、サークル用の更衣室として教室の使用申請を取るとことを行った。普段の練習時はあまり大きく貢献することかできていなかったので、今回少しでも役に立つことかでき嬉しく思う。

そして、ダンスサークルのステージパフォーマンスは成功し、木野祭期間中のステージの来客数は私たちのダンスサークルが最多であった。これは、とても喜ばしいことであり多くの人たちにパフォーマンスを見てもらい、私たちのダンスサークルを知っていただくことかでき、とても嬉しく思う。

私が行った『ヲタラップバトル』も最多ではなかったが、多くの方に来ていたたくことができた。

また、『ヲタラップバトル』では普通のラップバトルでは行えない、見ることができないような事を行いたいと考えていたが、『ヲタラップバトル』に参加してくれた人たちのお陰で普通のラフバトルでは見ることのないようなことができ「ヲタク」を全面に出し盛り上がることができた。私は、参加してくれた人たち全員に感謝している。

木野祭終了後にステージ解体も行ったが、ステージ解体は組み立てとは違い、平行を測るなどとか不要なため組み立てより早く作業ができた。

今回、木野祭実行委員になったことは、今後に繋がると考える。

（大学 人文学部
総合人文学科 ２年生）

奨学生レポート

N.K

私には、小学校の教員になるという夢がある。その夢を持った理由と今後その夢に向かってどのように大学生活を過ごしていくのかについて奨学生レポートを書きたい。

私が小学校の教員になろうと思った理由は３つある。

まず一つ目は、父である。父は現在、地域の子供たちにボランティアで勉強会を開き、仲間とともに勉強を教えている。父が学生の頃、同和地区の進学率が悪く、父自身も大学を中退して、コンプレックスを持ったことがあったため、そうした思いを地域の子供たちにしてほしくないと思い、勉強会が始まった。私自身も高校時代に勉強会に参加し、地域の中学生たちに勉強のアドバイスや、わからないことを教えたりすることで、教師になって父の思いをつないでいきたいという気持ちを持つようになった。

二つ目は、父の勉強会で育った教え子の存在である。その人たちは学生の頃、父のもとで勉強し、今は教師となって実際に教壇に立っている。そして、父と一緒に勉強会で地域の子供たちに勉強を教え、「こうした先生になりなさい」と私に教えてくださる目標の先輩である。私はその人たちと出会い、教師になりたいという思いが強くなった。

三つめは、同和地区に生まれたことである。私は、同和地区で生まれ育ったことで、解放学級に参加した。解放学級では、昔の同和地区の人たちが勉強するのに苦労してきたことや、ボランティア活動などで地域に貢献することの大切さを学んだ。解放学級には学ぶことの大変さや大切さを教えてもらった。

そして教師になるために、まずは大学生活をきっちりとすることが大切である。私は現代社会学科なので、小学校の教員になるためには通信教育で他の人よりも多く単位を取り、勉強していかなければならない。学部の勉強はもちろんのこと、他の人よりがんばっていきたい。自分で設定した目標を見失わず、三年後の採用試験に向かって仕上げていく。

さらに、アルバイトでも教育にかかわることをしていきたい。地域の勉強会で中学生たちに勉強を教えるときに自分自身で勉強するのよりも難しかった経験がある。なので、アルバイトでも実際に生徒に対して勉強を教えることで自分自身のスキルを上げていきたい。

また、朝田教育財団の奨学生として、差別のことを学び、差別と向き合っていきたい。奨学生の集いなどでは、これからの差別と闘っていけるような事を他の奨学生と話し合っていきたい。

教師になるためには今のままでは課題が山積みであるので、これからの三年半を有意義に使っていきたい。

（大学 社会学部
現代社会学部 １年生）

桃李成蹊　－朝田善之助記念館（専門図書館）建築の経過－

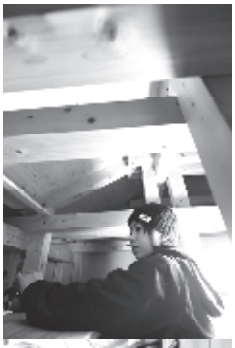
「桃李成蹊」は《桃や李はものを云わないが、その香しさを求めて人が集まり、その果樹の下には自ずから蹊（小道）が成る。心温かな人格者には、その徳を慕って自然に人が集まる》という意味で、司馬遷『史記』の一節。

教育者であった朝田善之助さんのもとには、幾多の優れた活動家が集い、理論と実践を学ぶ「朝田学校」と呼ばれました。いま同じように、この建物はものを云いませんが、建築の強用美に魅かれて集まる人々は、朝田善之助さんの蔵書の価値に邂逅し得ることでしょう。

さて、朝田善之助記念館（専門図書館）において、上棟祭までに柱と梁（重ね格子梁構法、３寸角ヒノキ1000本ほど）が組み上げられたのち、屋根・床組み、土壁塗り、板金・外壁杉板張り、木製サッシ、電気配線・照明器具、給排水設備、空調機器（太陽熱利用、地下水熱利用）などが施工されました。さらに、朝田善之助居室再現、木製建具・書庫本棚・事務室などの木工事、左官仕上げ、井戸掘削、庭木植栽などの外構工事にすすんでいます。

また、木工事を担う大工職人は20歳代の女性２名、設計･施工図を描く建築士は30歳代の女性です。この教育財団の資料館開設積立金（建築資金）は、若い職人や技術者の育成にも活かされることになります。

↑１階　資料閲覧室



↑大工職人
建築設計士

↑竹木舞　　↓土壁

↑２階
研修室の奥に
再現居室
１階→
資料閲覧室
エレベータ
白漆喰壁

朝田教育財団 奨学生 2018年度 募集

朝田教育財団は、**差別のない真に豊かな社会を実現する**ため、1981年に
朝田 善之助（元･部落解放同盟 中央執行委員長）が設立した財団法人です。
公益目的の**奨学事業**として、**部落問題の解決に寄与する意志を有する学生**
などに、**高等教育の就学を支援**しています。

奨学生の種類	1．**大学院奨学生** 2．**大 学 奨 学 生** 3．前各号に準ずる奨学生（ **短期大学生、高等専門学校生**など ）
奨学金の額	次の１または２の額のうち、いずれかを**選択**できます。 1．月額 **５０,０００** 円 （ 年額 **６００,０００** 円 ） 2．月額 **８０,０００** 円 （ 年額 **９６０,０００** 円 ） ただし、その年度の**奨学金予算**および**採用人数**により、 **奨学金の額を減額して採用を決定する**ことがあります。
貸与期間	原則として、**正規の最短修業年限**です。
返還方法	貸与終了後の６カ月を経過した翌月から、**２０年以内**に、 奨学金の全額を**無利息**で返還します。
募集人員	（ 新規採用 ）**若 干 名**
対 象 者 応募資格	**部落出身者** または **部落問題の解決に寄与する意思を有する者**で、 次の１または２に該当する者 1．**京都府内**に（法人本部の）ある**大学院・大学・短期大学・高等専門学校**（独立行政法人 高等専門学校 ４年生以上）に在学している者 2．**京都府を出身地とする者**で、**京都府外**にある**大学院･大学･短期大学･高等専門学校**（1に同じ）に在学している者
応募書類	1．**奨学生願書**（朝田教育財団所定の様式）　　連帯保証人と連署 2．**推　薦　書**（朝田教育財団所定の様式） 大学などの学長、学部長、専攻学科長、指導教授、 高等学校の学校長 もしくは 朝田教育財団役員などによる推薦 3．**在学証明書**（ または 合格証明書 ） 4．**部落問題**をテーマとする**小論文** （ **2000字以上**、Ａ４サイズ原稿用紙 または それに準じた様式 ） このうち「奨学生願書」「推薦書」は朝田教育財団までご請求ください。
参考図書	『**新版 差別と闘いつづけて**』朝田善之助、朝日選書145、朝日新聞出版、1979年
応募締め切り	**2018年４月末日** なお、募集人員に欠員が生じた場合は、その年度途中であっても応募を受け付けます。詳細はお問い合わせください。
選考方法	第１次：書類審査　　第２次：面接審査（2018年５月中下旬ごろ ）
採用通知	**2018年６月下旬ごろ**（ 予定 ）

公益財団法人 朝田教育財団　Asada Educational Foundation
606-8425　京都市左京区鹿ヶ谷西寺ノ前町 33 番地 1
Office Address　33-1 Nishiteranomae-cho, Shishigatani, Sakyo-ku, Kyoto 606-8425, Japan
Website URL　http://www.asada.or.jp　　E-mail Address　office@asada.or.jp
Phone　075-751-1171　　Fax　075-751-1789